第四中学校区の適正配置案

第四中学校区の適正配置案(1)

◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区(1)

星田北7丁目を除く星田駅北

(黒破線内緑色の区域)では、 戸建住宅138戸、共同住宅 389戸の合計527戸程度の 住宅開発が予定されている。

藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)



(藤が尾小学校敷地面積:20.444㎡)

メリット

・ 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

デメリット

~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

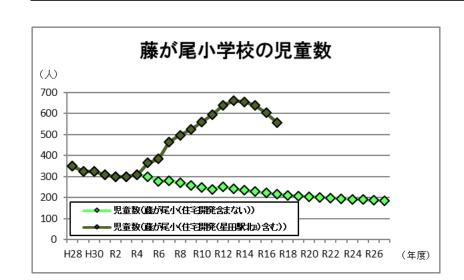
藤が尾小学校

- 将来的に小規模化する見込みである
- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

星田駅北の住宅開発の影響により、小規模化の

課題は解消する見込み

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する 校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの 中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。



岩小・私小を統合

私小敷地に新しい小学校を設置した場合

学校統合案(1)

岩小・私小を統合 岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

メリット

・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が延びる地域がある。 (最長約2.0km)

(学校数3)

学校統合案(2)

(私市小学校敷地面積:52,783㎡ うち27,425㎡は実験実習地)

メリット

- ・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 私市小学校敷地は敷地面積が大きい。

デメリット

通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.9km)

(学校数 3) (岩船小学校敷地面積: 17,556㎡)

第四中学校区の適正配置案(2)

星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区(2)



星田北7丁目を除く星田駅北

(黒破線内緑色の区域)では、 戸建住宅138戸、共同住宅 389戸の合計527戸程度の 住宅開発が予定されている。

藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)



(藤が尾小学校敷地面積:20.444㎡)

(岩船小学校敷地面積:17,556㎡)

メリット

・将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

デメリット

学校統合案(3)

(学校数 3)

岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

岩小・藤小を統合

・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。
- 将来、一時的に(新)小学校で適正規模を上回る 見込みである。

~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

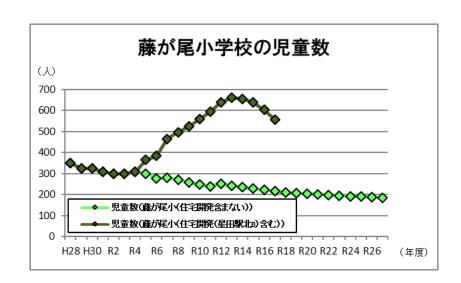
藤が尾小学校

- 将来的に小規模化する見込みである
- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

星田駅北の住宅開発の 影響により、小規模化の

課題は解消する見込み

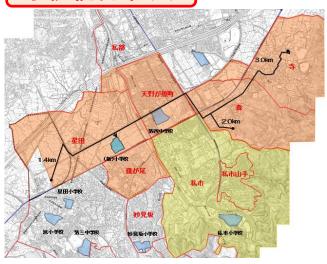
※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する 校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの 中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。



岩小・藤小を統合

藤小敷地に新しい小学校を設置した場合

学校統合案(4)



(藤が尾小学校敷地面積:20,444㎡)

(学校数 3)

メリット

将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約3.0km)
- ・将来、一時的に(新)小学校で適正規模を上回る 見込みである。

デメリット

メリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- (最長約2.7km)

第四中学校区の適正配置案(3)

星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区(3)

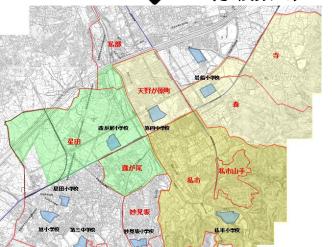
現況校区図 (学校数 4)

星田北7丁目を除く星田駅北

(黒破線内緑色の区域)では、 戸建住宅138戸、共同住宅 389戸の合計527戸程度の 住宅開発が予定されている。

藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)



(藤が尾小学校敷地面積:20.444㎡)

メリット

・将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

デメリット

岩小・藤小・私小を統合

学校統合案(5)

メリット

岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- (最長約2.7km)
- である。

~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

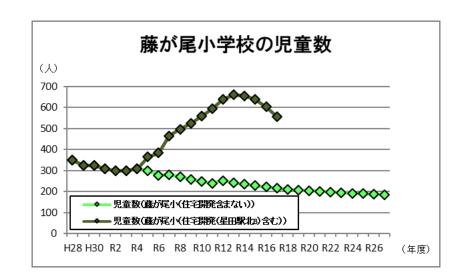
藤が尾小学校

- 将来的に小規模化する見込みである
- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

星田駅北の住宅開発の 影響により、小規模化の

課題は解消する見込み

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する 校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの 中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

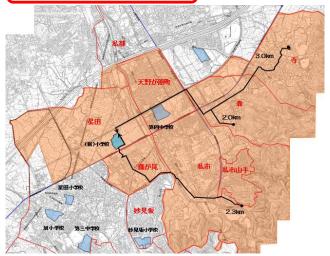


岩小・藤小・私小を統合

藤小敷地に新しい小学校を設置した場合

学校統合案(6)

(学校数 2)



(藤が尾小学校敷地面積:20,444㎡)

メリット

将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約3.0km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込み である。

岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。

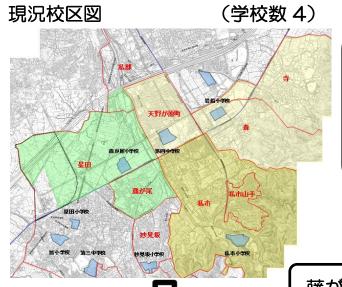
- ・通学距離が2kmを超える地域がある。
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込み

(学校数 2)

(岩船小学校敷地面積: 17,556㎡)

第四中学校区の適正配置案(4)

◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区(4)

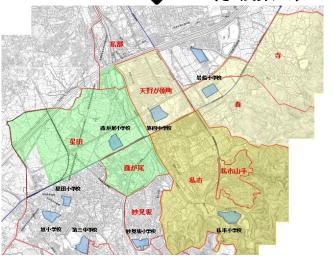


星田北7丁目を除く星田駅北

(黒破線内緑色の区域)では、 戸建住宅138戸、共同住宅 389戸の合計527戸程度の 住宅開発が予定されている。

藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)



メリット

・ 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

デメリット

~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

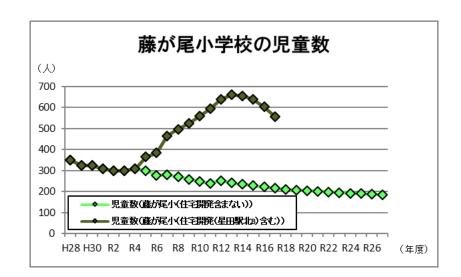
藤が尾小学校

- 将来的に小規模化する見込みである
- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

星田駅北の住宅開発の影響により、小規模化の

課題は解消する見込み

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する 校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの 中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

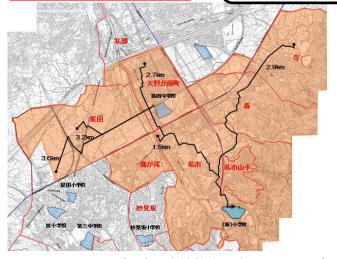


(藤が尾小学校敷地面積:20,444㎡)

学校統合案(7) 私儿

岩小・藤小・私小を統合

私小敷地に新しい小学校を設置した場合



(学校数 2) (私市小学校敷地面積: 52,783㎡ うち27,425㎡は実験実習地)

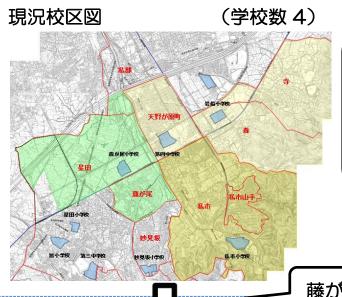
メリット

- ・ 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- 私市小学校敷地は敷地面積が大きい。

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約3.6km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

第四中学校区の適正配置案(5)

◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区(5)



星田北7丁目を除く星田駅北

(黒破線内緑色の区域)では、 戸建住宅138戸、共同住宅 389戸の合計527戸程度の 住宅開発が予定されている。

藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)



(藤が尾小学校敷地面積:20.444㎡)

メリット

・ 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。

デメリット

~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

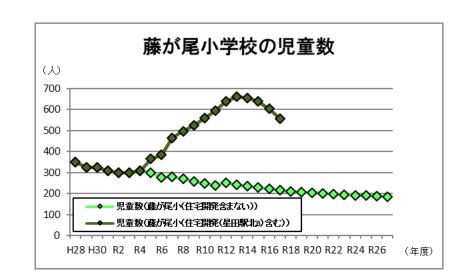
藤が尾小学校

- 将来的に小規模化する見込みである
- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

星田駅北の住宅開発の影響により、小規模化の

課題は解消する見込み

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。



小中学校統合案(1)

岩小・私小・四中を統合 四中敷地に新しい小中学校を設置した場合

た場合
小中字校統合案(

岩小・藤小・私小・四中を統合 四中敷地に新しい小中学校を設置した場合

メリット

・ 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.3km)
- ・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生 の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある。

デメリット

できる。

メリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.3km)
- (新)小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保

(学校数 2) (第四中学校敷地面積: 20,472㎡)

(学校数 1)

(第四中学校敷地面積:20,472m²)

第四中学校区の適正配置案(6)

◆ 星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区(1)

現況校区図 (学校数 4)

星田駅北(黒破線内の区域) では、戸建住宅300戸、 共同住宅190戸の合計689戸 程度の住宅開発が予定されて いる。

- ・星田北7丁目を校区変更 (星小校区⇒藤小校区)
- ・藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)

(藤が尾小学校敷地面積:20,444㎡)

メリット

・ 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。



- 中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。
- 校区変更地域では通学距離が長くなる。
- ・将来、藤が尾小学校が適正規模を上回る 学校規模となるおそれがある。

~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

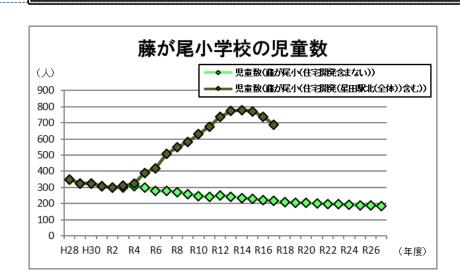
藤が尾小学校

- 将来的に小規模化する見込みである
- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

星田駅北の住宅開発の影響により、小規模化の

課題は解消する見込み

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する 校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの 中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。



岩小・私小を統合

私小敷地に新しい小学校を設置した場合

4444人生(4)

岩小・私小を統合 岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

学校統合案(8)

メリット

・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- ・岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- 通学距離が延びる地域がある。 (最長約2.0km)

学校統合案(9)

(学校数3)

(私市小学校敷地面積:52,783㎡ うち27,425㎡は実験実習地)

メリット

- ・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- ・ 私市小学校敷地は敷地面積が大きい。

デメリット

通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.9km)

産の形で物 製肉を有り を用いす物 を用いす物 を見取りす物 を見取りず物 を見取りず物

(学校数 3) (岩船小学校敷地面積:17,556㎡)

第四中学校区の適正配置案(7)

星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区(2)

現況校区図 (学校数 4)

星田駅北 (黒破線内の区域) では、戸建住宅300戸、 共同住宅190戸の合計689戸 程度の住宅開発が予定されて いる。

- ・星田北7丁目を校区変更 (星小校区→藤小校区)
- ・藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)

メリット

• 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。



- 中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。
- 校区変更地域では通学距離が長くなる。
- ・将来、藤が尾小学校が適正規模を上回る 学校規模となるおそれがある。

~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

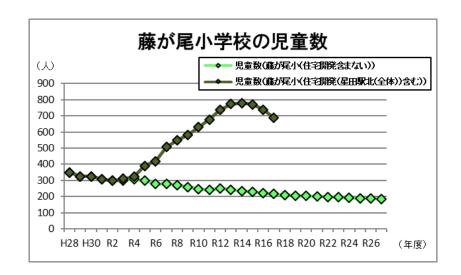
藤が尾小学校

- 将来的に小規模化する見込みである
- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

星田駅北の住宅開発の 影響により、小規模化の

課題は解消する見込み

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する 校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの 中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。



岩小・藤小を統合

藤小敷地に新しい小学校を設置した場合

(藤が尾小学校敷地面積:20,444㎡) 岩小・藤小を統合

学校統合案(10)

岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

(岩船小学校敷地面積:17,556㎡) (学校数 3)

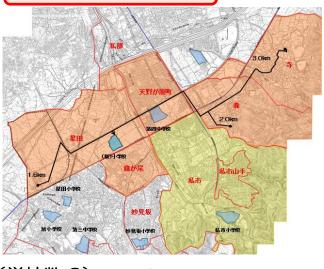
メリット

・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- ・通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約3.0km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込み である。

学校統合案(11



デメリット

メリット

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約3.0km)
- (新)小学校で長期的に適正規模を上回る見込み である。

将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

(学校数3)

(藤が尾小学校敷地面積:20,444㎡)

第四中学校区の適正配置案(8)

星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区(3)

現況校区図 (学校数 4)

星田北7丁目を除く星田駅北

(黒破線内緑色の区域)では、 戸建住宅138戸、共同住宅 389戸の合計527戸程度の 住宅開発が予定されている。

- ・星田北7丁目を校区変更 (星小校区→藤小校区)
- ・藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)

メリット

・将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。



- 中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。
- 校区変更地域では通学距離が長くなる。
- ・将来、藤が尾小学校が適正規模を上回る 学校規模となるおそれがある。

~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

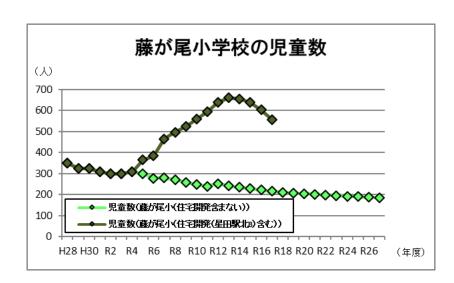
藤が尾小学校

- 将来的に小規模化する見込みである
- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

星田駅北の住宅開発の 影響により、小規模化の

課題は解消する見込み

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する 校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの 中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。



岩小・藤小・私小を統合

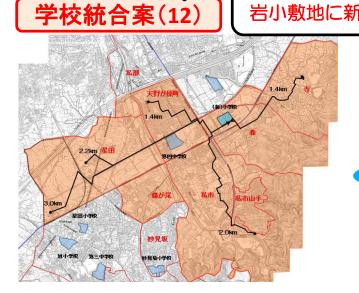
藤小敷地に新しい小学校を設置した場合

(藤が尾小学校敷地面積:20,444㎡)

岩小・藤小・私小を統合

岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

メリット

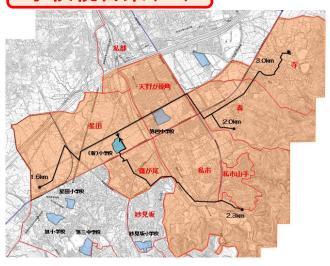


岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。

・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。
- である。

学校統合案(13)



メリット

将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約3.0km)
- (新)小学校で長期的に適正規模を上回る見込み である。

デメリット

- (最長約3.0km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込み

(学校数 2)

(岩船小学校敷地面積: 17,556㎡)

(藤が尾小学校敷地面積:20,444㎡)

第四中学校区の適正配置案(9)

◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区(4)

星田北7丁目を除く星田駅北

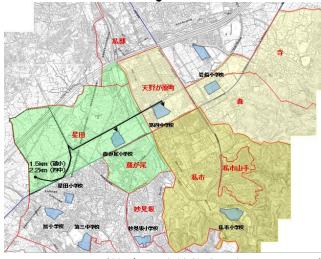
(黒破線内緑色の区域)では、 戸建住宅138戸、共同住宅 389戸の合計527戸程度の 住宅開発が予定されている。

- ・星田北7丁目を校区変更 (星小校区⇒藤小校区)
- ・藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)

メリット

・ 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。



デメリット

- 中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。
- ・校区変更地域では通学距離が長くなる。
- ・将来、藤が尾小学校が適正規模を上回る 学校規模となるおそれがある。

~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

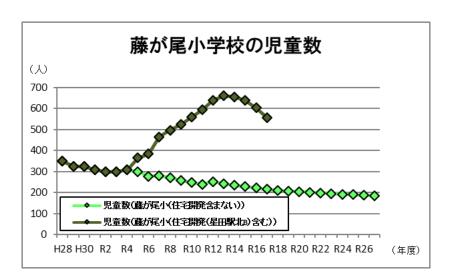
藤が尾小学校

- 将来的に小規模化する見込みである
- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

星田駅北の住宅開発の影響により、小規模化の

課題は解消する見込み

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

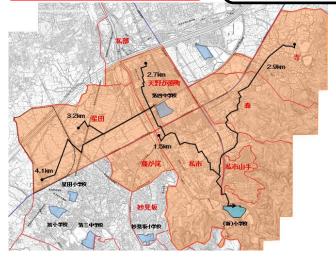


(藤が尾小学校敷地面積:20,444㎡)

学校統合案(14)

岩小・藤小・私小を統合

私小敷地に新しい小学校を設置した場合



(学校数 2) (私市小学校敷地面積:52,783㎡ うち27,425㎡は実験実習地)

メリット

- ・ 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- ・私市小学校敷地は比較的敷地面積が大きい。

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約4.1km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

第四中学校区の適正配置案(10)

◆ 星田北7丁目を除く星田駅北 ⇒ 藤が尾小学校区(5)

現況校区図 (学校数 4)

星田北7丁目を除く星田駅北

(黒破線内緑色の区域)では、 戸建住宅138戸、共同住宅 389戸の合計527戸程度の 住宅開発が予定されている。

- ・星田北7丁目を校区変更 (星小校区⇒藤小校区)
- ・藤が尾小学校の増床が必要

(学校数 4)

(藤が尾小学校敷地面積:20,444㎡)

メリット

・ 将来的な藤が尾小学校の小規模化が解消される。



- 中学校区をまたぐ校区変更となる地域がある。
- 校区変更地域では通学距離が長くなる。
- ・将来、藤が尾小学校が適正規模を上回る 学校規模となるおそれがある。

~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

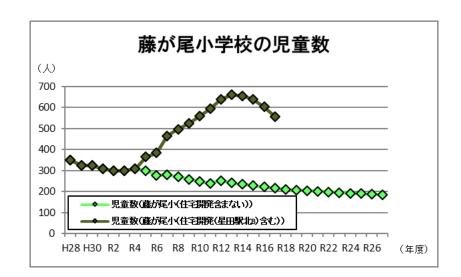
藤が尾小学校

- 将来的に小規模化する見込みである
- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

星田駅北の住宅開発の影響により、小規模化の

課題は解消する見込み

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する 校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの 中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。



小中学校統合案(3)

岩小・私小・四中を統合 四中敷地に新しい小中学校を設置した場合

メリット

・ 将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.3km)
- ・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生 の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある。

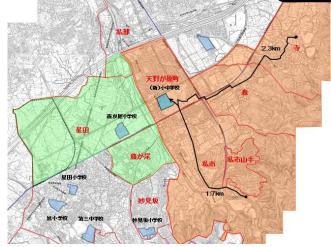
小中学校統合案(4)

岩小・藤小・私小・四中を統合 四中敷地に新しい小中学校を設置した場合

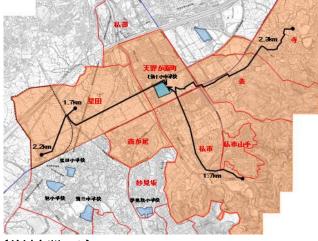
メリット

- ・将来的な岩船小学校の小規模化が解消される。
- ・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保できる。

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.3km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。



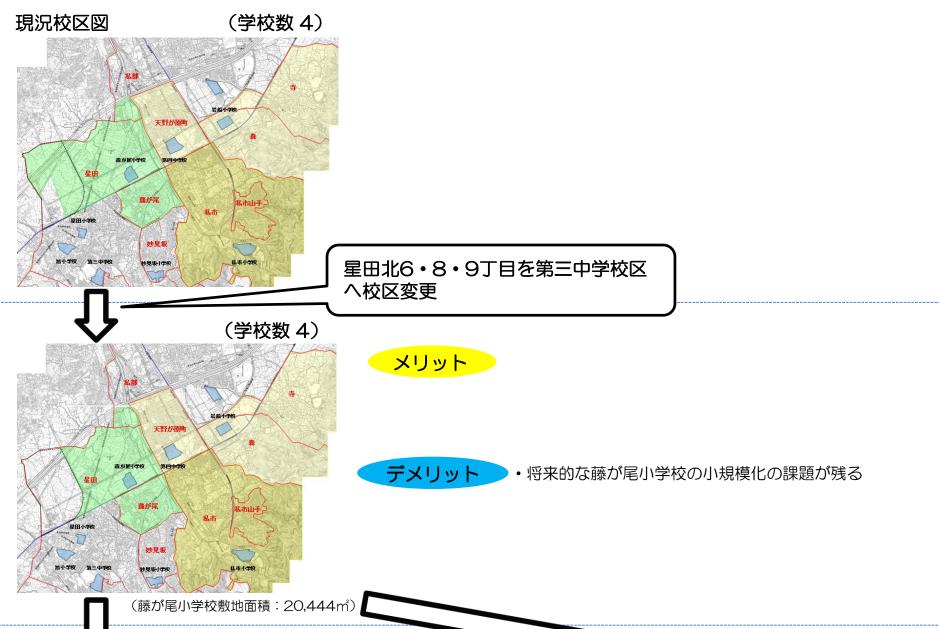
(学校数 2) (第四中学校敷地面積: 20,472㎡)



(学校数 1) (第四中学校敷地面積: 20,472㎡)

第四中学校区の適正配置案(11)

星田駅北 ⇒ 第三中学校区(1)



~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。
- ※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する 校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの 中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

~第四中学校区の課題の確認~

校区変更により星田駅北区域を第三中学校区へ校区変更。 この場合、藤が尾小学区の将来的な小規模化の課題が残

岩船小学校・藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過 する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、 ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

学校統合案(15)

岩小・藤小を統合

岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

学校統合案(16)

岩小・藤小を統合

藤小敷地に新しい小学校を設置した場合

メリット

・将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の 小規模化が解消される。

デメリット

- 岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。
- ・通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.5km)

メリット

• 将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の 小規模化が解消される。

デメリット

• 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約3.0km)

(学校数 3)

(岩船小学校敷地面積:17,556㎡)

第四中学校区の適正配置案(12)

◆ 星田駅北 ⇒ 第三中学校区(2)



~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。
- ※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

~第四中学校区の課題の確認~

校区変更により星田駅北区域を第三中学校区へ校区変更。 この場合、藤が尾小学区の将来的な小規模化の課題が残る。

岩船小学校・藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

学校統合案(17)

(学校数 2)

岩小・藤小・私小を統合

岩小敷地に新しい小学校を設置した場合

(岩船小学校敷地面積:17,556㎡)

デメリット

が解消される。

メリット

・岩船小学校敷地は比較的敷地面積が小さい。

• 将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の小規模化

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.2km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

学校統合案(18)

岩小・藤小・私小を統合 藤小敷地に新しい小学校を設置した場合

(学校数 2)

2) (藤が尾小学校敷地面積:20,444㎡)

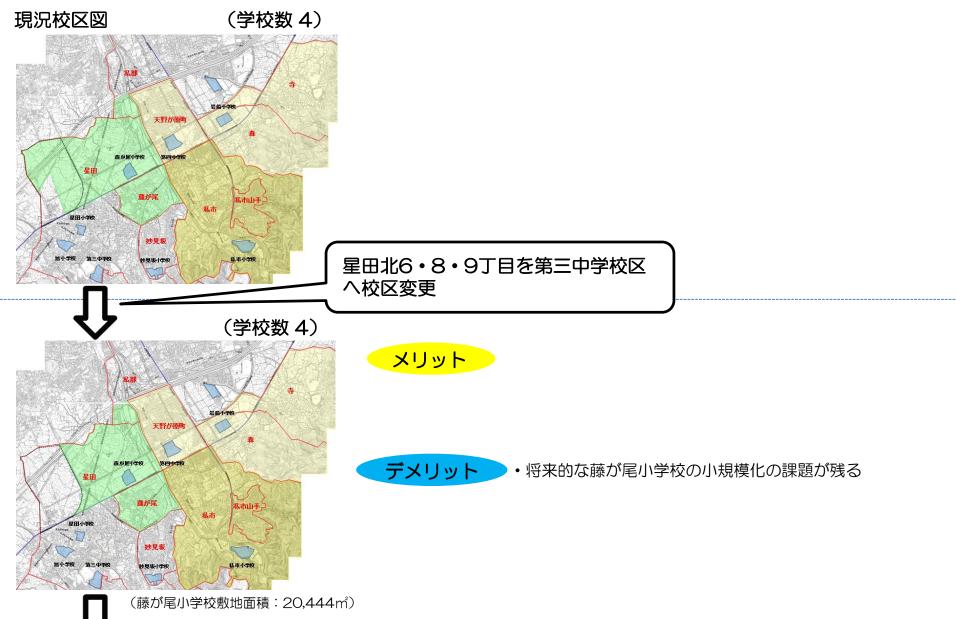
メリット

・将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の小規模化が解消される。

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約3.0km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込みである。

第四中学校区の適正配置案(13)

星田駅北 ⇒ 第三中学校区(3)



~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。
- ※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する 校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの 中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

~第四中学校区の課題の確認~

校区変更により星田駅北区域を第三中学校区へ校区変更。 この場合、藤が尾小学区の将来的な小規模化の課題が残

岩船小学校・藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過 する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、 ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

学校統合案(19)

岩小・藤小・私小を統合

私小敷地に新しい小学校を設置した場合



- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込み である。

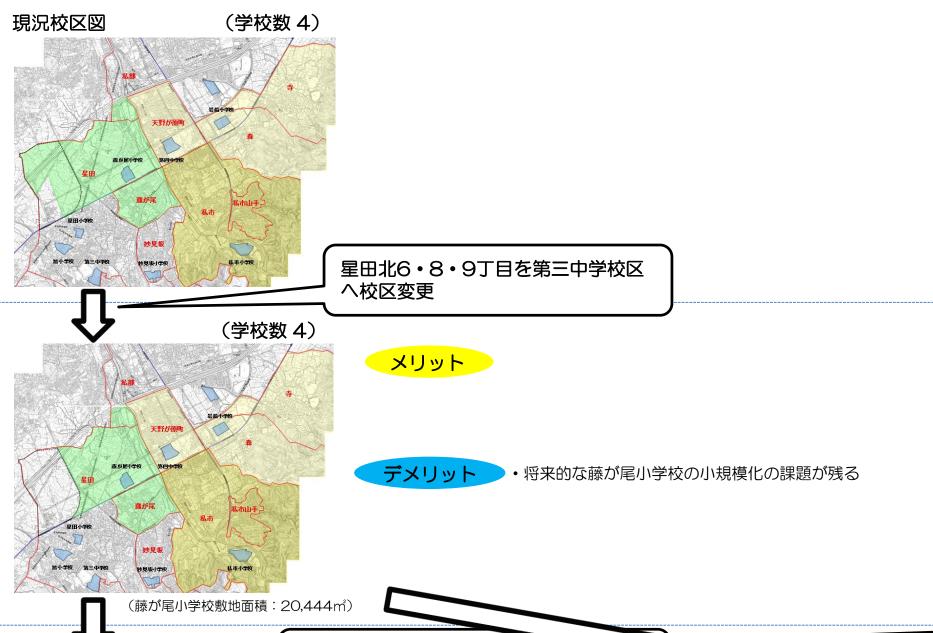
メリット

- ・将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の小規模化が解消される。
- 私市小学校敷地は敷地面積が大きい。

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約3.2km)
- (私市小学校敷地面積:52,783㎡ (学校数 2) うち27,425㎡は実験実習地)

第四中学校区の適正配置案(14)

星田駅北 ⇒ 第三中学校区(4)



~第四中学校区の課題~

岩船小学校

将来的に小規模化する見込みである

藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

- ※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。
- ※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する 校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの 中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

~第四中学校区の課題の確認~

校区変更により星田駅北区域を第三中学校区へ校区変更。 この場合、藤が尾小学区の将来的な小規模化の課題が残

岩船小学校・藤が尾小学校

将来的に小規模化する見込みである

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過 する校舎棟があるものの、そのほかの学校については、 ほかの中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。

岩小・藤小・私小・四中を統合 四中敷地に新しい小中学校を設置した場合 小中学校統合案(6)

小中学校統合案(5)

岩小・藤小・四中を統合

四中敷地に新しい小中学校を設置した場合

メリット

・将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の小規模 化が解消される。

デメリット

- ・通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.3km)
- ・小中一貫教育を行う上で、中学校区内の小学生 の間に教育機会等の不均等が生じるおそれがある

(学校数3) (藤が尾小学校敷地面積:20,444㎡)

メリット

- ・将来的な岩船小学校及び藤が尾小学校の 小規模化が解消される。
- ・小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境が確保 できる。

デメリット

- 通学距離が2kmを超える地域がある。 (最長約2.3km)
- (新) 小学校で長期的に適正規模を上回る見込み である。

(学校数 3)

(第四中学校敷地面積:20,472㎡)

第四中学校区の適正配置案(15)

星田駅北 ⇒ 新しい小中学校区とする場合

現況校区図 (学校数 4)

星田駅北を新しいコミュニティとし、 現藤が尾小学校区と合わせて、 新しい小中学校区として、 施設一体型の小中一貫教育実践校を設置する場合

~第四中学校区の課題~

岩船小学校

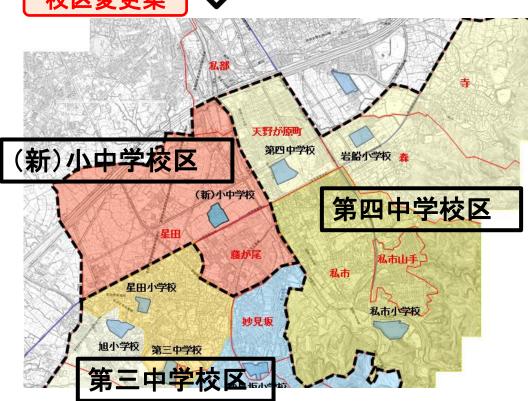
将来的に小規模化する見込みである

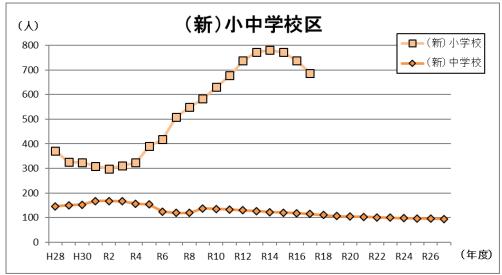
藤が尾小学校

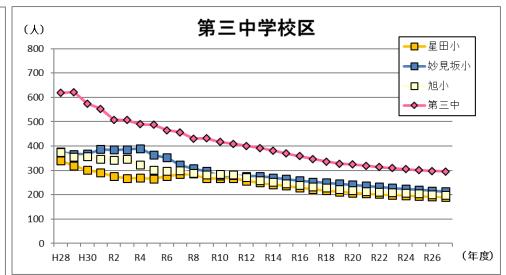
将来的に小規模化する見込みである

※私市小学校については、推計上R27年度時点で適正規模を 維持する見込みであるが、将来的に児童生徒数は300人を 下回るなど小規模化する可能性は考えられる。

※学校施設については、岩船小学校で築後47年を経過する 校舎棟があるものの、そのほかの学校については、ほかの 中学校区の学校施設と比べると、比較的新しい。





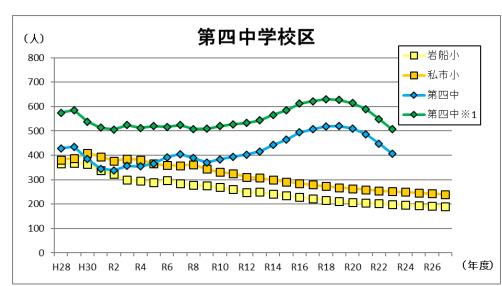


メリット

(新) 小中学校区で、小中一貫教育の成果を認識しやすい教育環境ができる。

デメリット

- 将来的な岩船小学校の小規模化の課題が残る
- ・将来的に第四中学校が小規模化する見込みである。



第四中※1: 藤が尾小学校が第四中学校区で あった場合の生徒数

(ただし、星田駅北の生徒は含まない)。